

2378
3

山東京傳作
歌川豊國画

善悪因果經云
阿難小告玉女
所問の如受報不同者
皆先世用心不尋不
由是以て受て受て受て
差万別あり云
釈論云三界死
別法唯是是心の
作心能地獄心能天堂心能九夫
心能賢聖云されバ心あり鬼と
も皆是心の所作善悪小



浪華俣者
紋深五郎
一称五尺深五郎

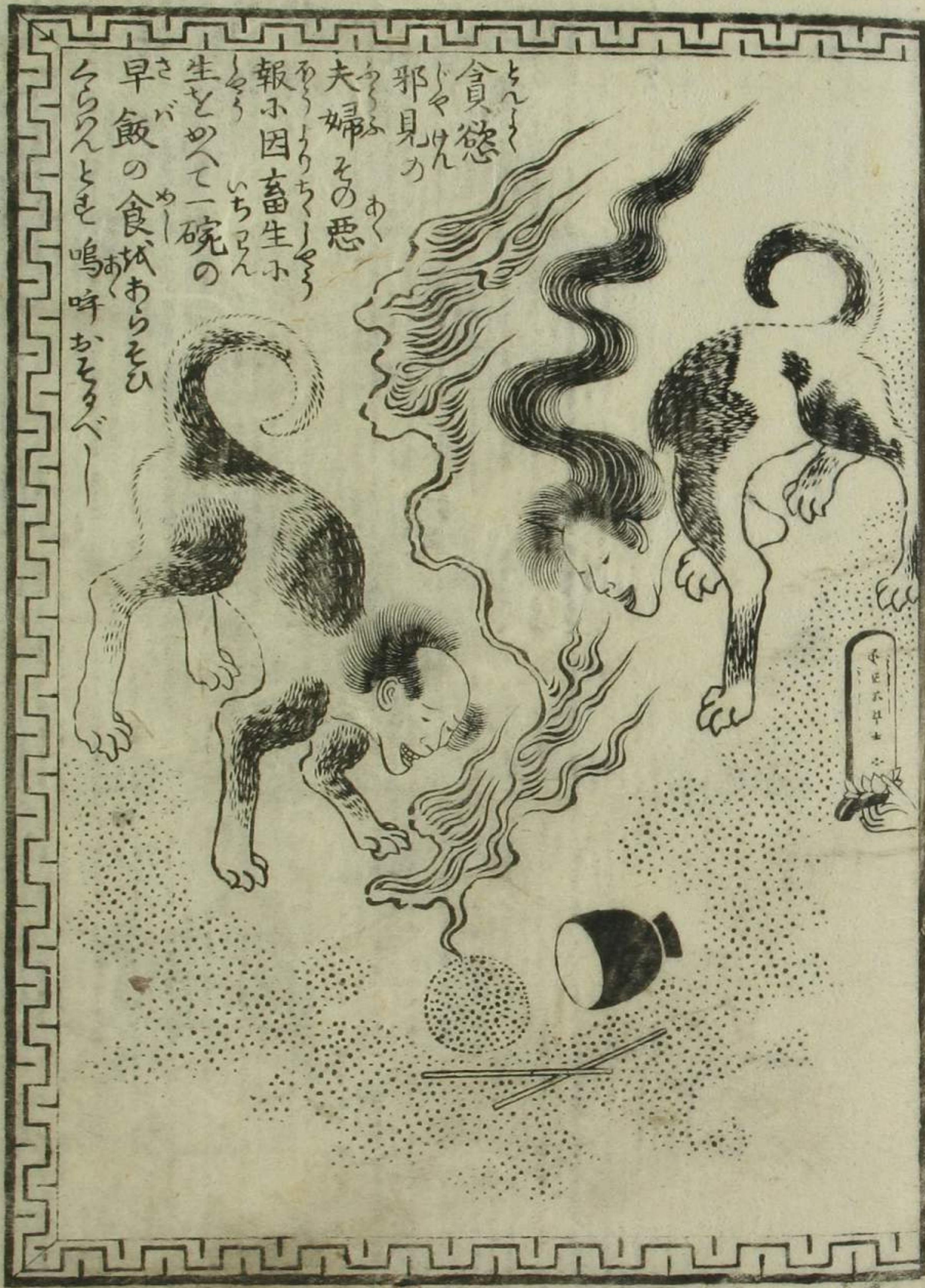
先立悪種と時
今生小悪と生今生小悪根と
生これバ未来小悪菓とむまふ三世
因果の道理一点もたかむまふ愛小
貧欲邪見の夫婦其報子よりて
畜生道小階ホ一其悪冥
賤放不著て讐言歌を
執殺したる一回の怪談
あると寛永年間印本
鈴木正三公洞の続因
果物語小詳なり
今其事跡を畧記
馬文耕が俠客傳小
記五尺深五郎が紀事以附して



全部五冊
一回の
小説と
善悪因
果唯一の
理を示て見
女勸懲の一端
とあり而已
山東
京傳述







貪慾
 邪見の
 夫婦その悪
 報小因畜生小
 生を以て一碗の
 早飯の食成あらそひ
 くらんとを嗚呼おそくばー

一ノ五

一ノ四



足柄山強賊
 釜ヶ淵
 牛九郎

堀川百首
 ねと人のたぐいの山ホ
 いりふけりおそくばーの
 名あや
 けさぬん

都四条河原辻君
 露子の
 壁の

一ノ三

一ノ二



豆州天城山の獵戸
 山丸團八琵琶法師の
 布縮を剽掠たる事
 あつてその地を逐拂る



一機白雲晚
 四絃黃葉秋

琵琶法師の争
 貪慾の夫婦
 走るる番
 螺舎
 其角
 袋み
 おさめ
 けん
 琵琶
 八
 月



かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき

此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき



かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき

かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき
かてきん
七月の三日
此の山天城山
大田に山天城山
ありしはさかき

さてりのの
 まんがまん
 けのま
 いひつけて
 エゴウのやまの
 ちつるまのせん
 まごりこせ
 じんげつるま
 ろふれーと
 とまのいり
 ありとまのい
 りしゆてま
 林ではれ孝の助
 の花の井と人
 さのあわらとら
 にあなるをせん
 りあやとまの
 ひたのひてま
 へんらま
 まのまの
 めつりの男
 あわらとまの
 ありとまの
 りのあまの
 下人まの
 下まの



さてりのの
 まんがまん
 けのま
 いひつけて
 エゴウのやまの
 ちつるまのせん
 まごりこせ
 じんげつるま
 ろふれーと
 とまのいり
 ありとまのい
 りしゆてま
 林ではれ孝の助
 の花の井と人
 さのあわらとら
 にあなるをせん
 りあやとまの
 ひたのひてま
 へんらま
 まのまの
 めつりの男
 あわらとまの
 ありとまの
 りのあまの
 下人まの
 下まの

さてりのの
 まんがまん
 けのま
 いひつけて
 エゴウのやまの
 ちつるまのせん
 まごりこせ
 じんげつるま
 ろふれーと
 とまのいり
 ありとまのい
 りしゆてま
 林ではれ孝の助
 の花の井と人
 さのあわらとら
 にあなるをせん
 りあやとまの
 ひたのひてま
 へんらま
 まのまの
 めつりの男
 あわらとまの
 ありとまの
 りのあまの
 下人まの
 下まの



さてりのの
 まんがまん
 けのま
 いひつけて
 エゴウのやまの
 ちつるまのせん
 まごりこせ
 じんげつるま
 ろふれーと
 とまのいり
 ありとまのい
 りしゆてま
 林ではれ孝の助
 の花の井と人
 さのあわらとら
 にあなるをせん
 りあやとまの
 ひたのひてま
 へんらま
 まのまの
 めつりの男
 あわらとまの
 ありとまの
 りのあまの
 下人まの
 下まの

わんわんわんわん
わんわんわんわん
わんわんわんわん



わんわんわんわん
わんわんわんわん
わんわんわんわん

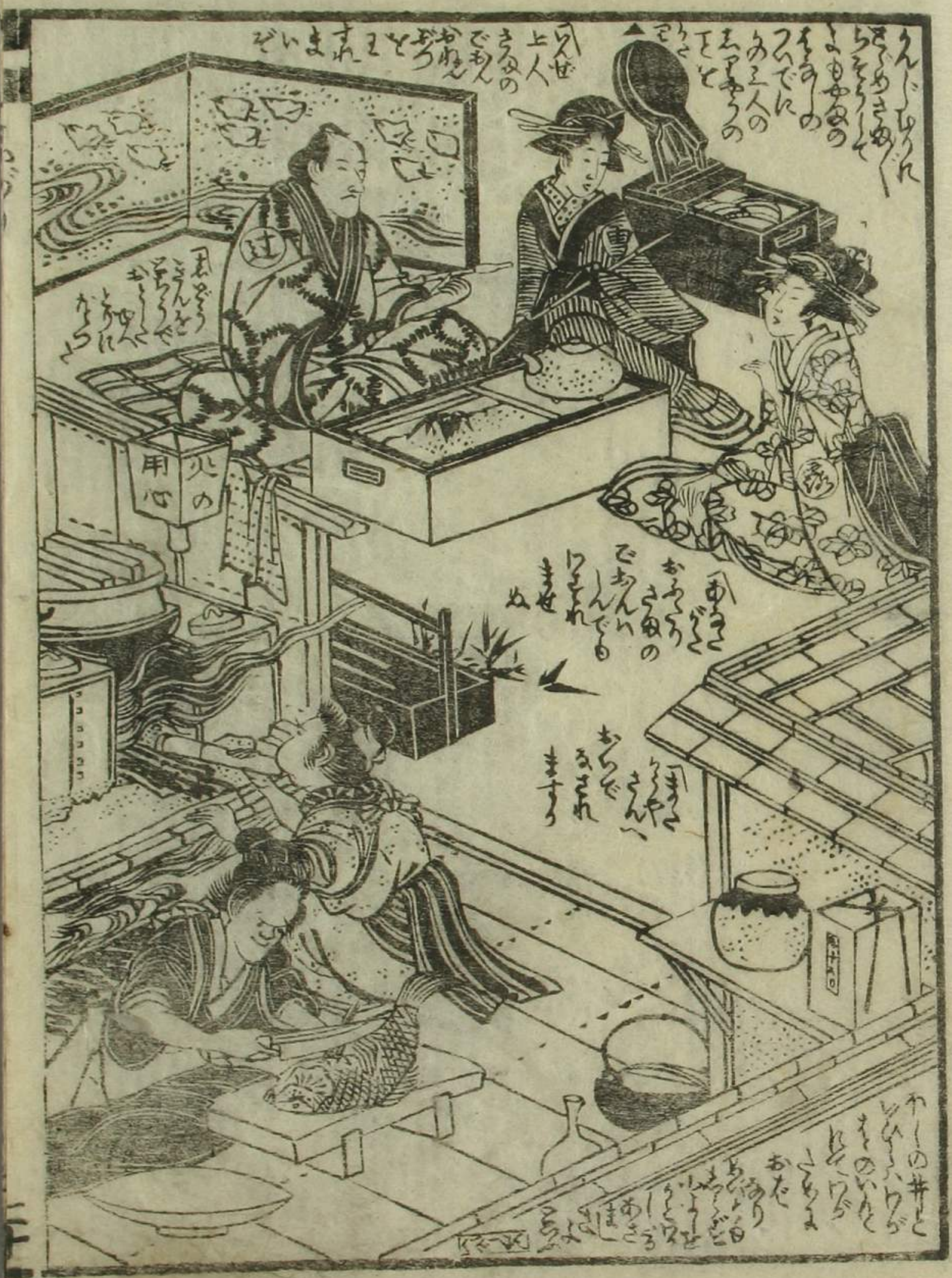
わんわんわんわん
わんわんわんわん
わんわんわんわん



わんわんわんわん
わんわんわんわん
わんわんわんわん







せいま...
 せいま...
 せいま...

せいま...
 せいま...
 せいま...
 せいま...
 せいま...



さつぱ...
 さつぱ...
 さつぱ...
 さつぱ...

のね...
 のね...
 のね...



此の巻のいふこと... (This volume tells of...)
 けりしにあらん... (It is said that...)
 あれは... (That is...)
 あま... (Oh...)
 せん... (I...)
 あ... (Ah...)
 以上三とわり... (The above three parts...)
 二つと... (Two...)
 又ハ身... (Again, the body...)
 京傳自... (The capital story...)
 山東京山玉... (The mountains of the capital...)
 石削... (The stone...)
 京傳店 (The capital story shop)



五郎の傳は客傳
團八の各の傳あり
畜生の生は石平道人の
續因果

豊國画の
山東京傳作

彫工石川屋三郎衛門



世に塗乃
平内と人
人乃奥書ありて



夫三世人の
善悪の因果
論然る善悪の報い
勸徳の端あり



東海道
あつたあ
あつたあ
あつたあ
あつたあ
あつたあ



